

# UZ国際交流KR

person to person

## ① きっかけ

私は、小さい頃から歌うことが好きで小学生の頃から市の児童合唱団に通っている。中学生になってからも、小中高生の合同合唱団になった子どもコーラスに通い続けている。私が中学2年の頃子どもコーラスでの活動が活発になり始めた。2022年に、「舞鶴市民オペラ」2023年に「舞鶴市民第九」などの活動に参加するようになった。このような活動に参加するようになって海外音楽や言語に興味をもった。そこで私は、ペアの人と「世界の人々と交流したい」という目標を立てた。活動するにあたってのチーム名は、『person to person』『人から人へ』という意味を込めた。

## ② 活動の準備

私達は、目標実現の為に市で行われている国際交流について調べることにした。

舞鶴では、イギリス、ウズベキスタンと交流があることが分かった。ネットでは、詳しい情報を得ることが出来ない所以、市役所にある国際交流課にお話を聞きに行くことにした。実際にお話を聞くと、韓国浦項市の中学生と交換留学を行っており、今年の夏には城南中学校に韓国の中学生が来ていたことが分かった。

## ③ 実践

私達は、k-popが好きで韓国に興味があることを伝え、9月26日に韓国の中学生とオンラインでの交流をすることが決まった。ペアの人に韓国語を教えてもらい韓国語で自己紹介をすることが出来た。私は「こんにちは」「ありがとう」しか元々話せなかったもので、上手く伝わってとても嬉しかった。向こうの方も日本語で挨拶してくれたので緊張がほぐれた。お互いの学校、街を紹介する際に韓国語のスライドを作り伝えるように工夫した。韓国の学校は、全体的にICTの技術が発展していることに驚く。また、韓国で有名な日の出スポットを教えることも育祭の規定時間内で行った。私達は、和田中の伝統である体演技と舞鶴の歴史的な建物や郷土の料理を紹介し、その後、学校紹介や雑談などを含め、お互いに有意義な交流をすることが出来た。



発展していることに驚く。また、韓国で有名な日の出スポットを教えることも育祭の規定時間内で行った。

### ③実践 Part2

10月18日も、ウズベキスタンの方とオンラインで交流することが決まった。

最初は、「英語で会話をしたいからイギリスと交流したいです。」と、国際交流課の方に伝えていましたが、時差の関係で英語教育が発達しており、もともと舞鶴との交流が深いウズベキスタンの方と交流することに決まった。事前の電話で「相手は、中学生ですか？」と聞くと「ウズベキスタンには義務教育という考えがないですが、年齢は15、16歳の同世代の方ですよ」と教えて頂いた。交流会当日は私自身が子どもコーラスで参加したプロジェクトの関係でウズベキスタンに、興味があったので学校、舞鶴を紹介するスライ



ドを事前にウズベク語で作成し会話は、英語で行った。電話で教えて頂いた、学校のことを聞くと、交流した学校は、小学校から大学までが1つになっており、全校生徒が2000人程いるということが分かった。また、お互いの国の郷土料理の話になり、ウズベキスタンでは日本でいう白米のような物を教えてくれた。あまり、イメージが湧かなかったので、「小学校の給食でよく出てきたやつかな？」というと、当日補助の為に市役所から来ていただいていた、国際交流員のアシルベクさんが、ニコニコしながら「それです！」と優しく答えてくれた。当日は、自己紹介と挨拶はウズベク語でやりたかったので準備をしていたけれど、ウズベク語を使うことが出来なかった。

### ④国際交流を通して

国際交流というテーマでの活動を通して、自分たちからどこの国の人と、なぜ交流したいのか、どのように会話をするのかなど自分達で具体的に考えて行動する力が着いたと思う。協力してもうかたには、具体的に目的や計画を納得してもらいやすいように伝えることが大切だと分かった。最初は、明確に決まっていなかったことばかりだったけれど、先生方に、「なんのために？」「どんな交流内容？」などと何度も聞かれうちに、自分たちなりに具体的に物事を示して活動することが出来た。

また、交流会を成功させようとするために韓国語で自己紹介に挑戦したり、ウズベク語でのスライドを作成したり相手の方に伝えようとする努力が出来た。交流会の最後に Instagram の ID を聞かれて交換し、今でも交流した方と繋がりを持っている。



民族衣装などを教えてもらったり、お互いの国のドラマについて紹介したりして仲良くなる事が出来た。いつ、交流した方から連絡が来るのか、なんて連絡しようか毎日ワクワクしている。私達は、他のグループと違って“自分の将来の為の経験値になるけれど、舞鶴の為になっているのかな？”と思いながら活動をしていた。実際に活動を終わると舞鶴や和田中学校の為にになっていたと気付いた。何故なら、お互いに住んでいる街や学校を紹介していたからだ。私達は、国際交流を通して舞鶴や和田中学校の文化などを海外に発信していたということに気が付いたのだ。

### ⑤今後国際交流の機会があれば

今回は、私達だけの力で会話することが出来なかったうえ、話しの内容が途中でそれてしまったのが反省点だと思っている。だから、もっと交流したい国の言語を学んで日本語を使わずに交流できるようになりたい。また、話す内容をあらかじめ大まかに決めておくなどの工夫をしたい。もし、また機会があるなら次は実際に対面で、交流してみたい。そして、舞鶴や和田中学校を海を超えて世界に発信し、沢山の人のために知って貰いたい。

# 和田クエスト

## 目的

まず、自分の地域である舞鶴市がどんな町であるかを考えました。考えた時、舞鶴は人口が少なく、あまり活気がないと思いました。だから、舞鶴の人口をあまり減らしたくないと思い活動することにしました。

## 内容

舞鶴の人口を減らさないためには、イベントをしたらいいと思いました。はじめは、舞鶴で人気がある場所でイベントをすればいいと考え、「赤れんが」がいいと思いました。しかし、7月にあった「夢講演会」でFLAT+があることを知りました。また、8月にはFLAT+の関係者である方にお会いし、活動内容を説明し、協力をお願いしました。そこで、FLAT+を借りてカフェをすることになりました。

FLAT+の関係者の方にカフェをしている「KAN,MA Dining」というところがあることを教えてもらいました。だから、そこに行きカフェの接客などについて教えてもらいました。自分が思っていた接客とは違い、お客さんのことをしっかり考えて接客していることがわかりました。新しく学べることがあるので、実際に聞きに行くことは大切だなと思いました。

初めはガトーショコラやオレオチーズケーキを作ってカフェで出そうとしていました。しかし、試作をしていくうちにカフェで販売できるようなものではないとなりました。そこでみんなが食べられそうなシフォンケーキを作ることになりました。また、先生に去年の3年生が作ったレシピがあることを聞き、4つあるうちの1つのレシピを使わせてもらい、この2つを作りカフェで販売することになりました。

カフェではたくさんの方に来てほしいと思い、宣伝用のチラシや地図を校内に貼りました。そのおかげで当日はたくさんの方に来てもらうことができました。

## 振り返り

初めてのことで、カフェ(当日)までの計画が上手に立てられていませんでした。だから当日も、準備の時に考えていなかったことも起こりました。でも、みんなで協力し、成功させることができました。実際に場所に行ったり、聞きにいったりすることで新しい発見があることがわかりました。この活動から、学校では学べないことを学ぶことができました。だから、この活動で学んだことをこれからに役立たせたいです。

スイーツ食べに来てください！

私達は和田中学校の3年生です。総合の学習でカフェをする事にしました。スイーツを飲み物とセットで出します。舞鶴の方に沢山来て欲しいです。

詳細

- 日時・10月22日 日曜日 13時~17時の予定
- 場所・西舞鶴 FLAT+ 平野商店街
- メニュー・カップケーキ シフォンケーキ

コンセプトは**安く食べられる**スイーツです。気になった方は是非お越しください。

